

全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会 プログラム別詳細

タイトル	ランチョンセミナー 「在宅医療が日本を変えるーキュアからケアへのパラダイムチェンジャー」
共催	久光製薬株式会社
日時	平成26年3月23日(日) 12:20~13:20
会場	サピアホール(501)
座長	市原利晃 (秋田往診クリニック・連絡会世話人)
演者	中野一司 (ナカノ在宅医療クリニック・連絡会ITコミュニケーション局長・大会実行委員長)
企画の趣旨・概要	<p>1999年9月にナカノ在宅医療クリニックを開業して15年目を迎える。開業当初は、病院で行われている医療を、そのまま在宅で展開するのが在宅医療だと考えていた。ところが、15年間の在宅医療の経験を経て、在宅で(不必要な)医療をしないのが在宅医療であるという意識が変わった。演者はこれらの在宅での経験を元に、村田久行先生の村田理論(キュア、ケアの定義)を用いて(文献1)、従来のキュア志向の病院医療に対しケア志向の在宅医療という新たな在宅医療の医療概念を提唱する本を出版するに至った(文献2)。</p> <p>在宅医療は病院外で展開する医療(病院外医療)であって、従来の病院内で展開される病院医療とは、その哲学が違うと考えている。病院は、病気を検査し治療する場所で、キュア(治療)が優先する。これがキュア志向の病院医療である。これに対し、在宅(病院外、地域)では、治療(キュア)より生活(ケア)が優先され、死ぬまで住み慣れた地域で生きたいという本人の希望が優先され、その結果が在宅での看取りに結びつく。これがケア志向の在宅医療である。看取りは、本人の最期まで住み慣れた地域(在宅や施設)で生きることを(ケア志向の在宅医療で)医療的に支援した結果であり、そのことが結果的に医療費を安くするのである。看取りは本人の意向を尊重した結果であり、(財源確保の)目的ではないという視点は非常に重要であることを強調したい。</p> <p>演者の主催するCNK-ML(http://nakanozaitaku.jp/renkeikyoten/carenet.html)で、数年前に、従来のキュア志向の病院医療に対し、ケア志向の在宅医療という新たな概念を提唱したいと発信したところ、急性期医療=キュア志向の病院医療、慢性期医療=ケア志向の在宅医療で良いではないかとのレスが返ってきた。全くその通りで全く異論はないのであるが、現在我が国(世界中)で展開されている慢性期医療のほとんどはキュア志向の病院医療の哲学で実践されているところに、超高齢社会の医療・介護の問題が内在していると考えられる。</p> <p>従来から、医師は基本的にキュア志向であり、キュアを実践するのが医師の使命として教育されてきた。そして、医師の意識を、キュア志向の病院医療の哲学からケア志向の在宅医療の哲学へ変換させてくれるのは、病院外(在宅や施設など)の現場である。この意味では、外来診療もキュア志向の病院医療の延長であり、多くの医師(特に開業医)は、地域(在宅や施設)に向かない限り、その意識はキュア志向からケア志向に離脱できない。我々開業医は、もっと地域(在宅や施設)に向いて、地域のかかりつけ医として機能しても良いのではなからうか。</p> <p>現在、厚労省の「専門医の在り方に関する検討会」で検討されている“総合診療専門医”こそ、ケア志向の在宅医療の専門医(家庭医療専門医を含むかかりつけ医)と考えるのが演者の持論である(文献3)。医療と介護の連携において、治す医療であるキュア志向の病院医療と生活を支える介護(ケア)では、油と水のようなもので、連携のしようがない。油と水の接着因子として界面活性剤が機能するように、キュア志向の病院医療(油)と介護(水)をつなぐ、ケア志向の在宅医療(界面活性剤)が医療と介護の連携のためには必要で、ケア志向の在宅医療を担う専門医こそ“総合診療専門医”で、地域のかかりつけ医が担うべき役割と考える(文献3)。</p> <p>病院中心型医療システムから地域包括ケアシステムへの転換が叫ばれている中、この地域包括医ケアシステムの中心となるべきかかりつけ医こそ、“総合診療専門医”であって、かかりつけ医が病院(病室や外来)から地域(在宅や施設)に出て、医師の意識がキュア志向の病院医療の哲学からケア志向の在宅医療の哲学に変わることこそ、地域を変え、地域包括ケアシステムが構築できる必要条件と考える。その意味で、本ランチョンセミナーのタイトルを「在宅医療(病院外医療)が日本を変えるーキュアからケアへのパラダイムチェンジャー」とした。</p> <p>(参考文献) 1. 村田久行:「改訂増補 ケアの思想と対人援助」。川島書店、1998年 2. 中野一司:「在宅医療が日本を変えるーキュアからケアへのパラダイムチェンジャー」。「ケア志向の 医療=在宅医療」という新しい医療概念の提唱」。ドメス出版、2012年。 3. 中野一司:「ケア志向の在宅医療の担い手としての総合診療専門医が医療を再生させる」。日本 医事新報 No.4675 2013.11.30 P88-91。 http://nakanozaitaku.jp/pdf/sippitu/jji201311.pdf</p>